



こうきた 7月号

杉並区立高円寺北子供園

アタッチメントと非認知的な心の発達

園長 川嶋 佳恵

つい最近まで肌寒い日があったと思っていたら、あっという間に真夏の気候になりましたね。子供園では、6月20日より水遊び、プール遊びが始まりました。水に触れたり、水の中で動いたり、泳いだりすることはとても開放的で楽しい活動ですが、水中ということで危険も伴う活動です。プール開きのセレモニーでは、先生たちが、プール指導をする先生役とルールを守れない子、ルールを守って安全に遊ぶ子などの役になって劇をし、先生の話をよく聞いて行動することやプールサイドやプールの中でやってはいけないこと等「6つのお約束」についてみんなで共有しました。子どもたちは、とても真剣に劇を見たり話を聞いたりしていました。今後も子どもたちが楽しく安全に水遊びやプール遊びができるよう職員同士連携し、ルールにそって細心の注意を払いながら、どの子も楽しく取り組めるようにしていきます。

さて、先日、区立、私立に関わらず杉並区の子供園や幼稚園、保育園の保育者が一緒に学ぶ区立私立保育共同研修会がありました。そこでの東京大学の遠藤利彦先生の『乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達』についてのお話が子育てにおいてとても大切な内容でしたので、ここでお伝えします。

皆さんは、**アタッチメント**という言葉を知っていますか。遠藤氏によると、「子育て・育ては、元来、子どもも大人(親・保育者)もみんな一人ひとり違い、そして、それぞれの子とも大人が置かれた生活状況も異なるので、「たった一つの理想形」というものは存在しない。だから、子育てにおいては、『基本』だけを押さえて、あとは、一人ひとり個性的な我が子に教えてもらいながら、また、子育てをする大人自身の個性を生かしながら、さらに、自分たちが置かれた状況を現実的に見据えながら、「それぞれの形」を作っていくべきものであり、その『基本』の一つが**アタッチメント**である。」というのです。

アタッチメントというのは、幼児が恐怖を感じたとき、危険を感じたときに生じる恐れや不安等のネガティブな情動を特定の他者への近接性の確保を通して制御・調整しようとする行為傾向のことを言います。分かりやすく言うと、生活の中で怖い、いやだった等不安定な気持ちになって感情が崩れたときに、いつでも受け止めてくれて安全地帯となってくれる特定の大人(保護者や保育者)に近づいて、安心感が得られるということです。このアタッチメントを日常生活の中で、繰り返し経験することで、人格形成の基礎となる力(非認知能力)が育まれるというのです。例えば、子育ての中で、お父さんが不安を感じて、自分の思い通りにいかなくて、声を上げて泣きながら大人を求めた時に、保護者の方が無条件で受け入れて抱っこし、「嫌だったね。」「痛かったね。」「大丈夫だよ。」とその子の心情を言葉にしながらかみ声を掛けることで、安心し、気持ちが安定して、また遊び出すことがありますね。そのような行為を生活の中で何度も繰り返すことで、「自分という存在は、いつでも大切にもらえる」「どんな自分でも愛してもらえる」「そうしてもらえるだけの価値が自分にはある」という気持ちになります。こういう心が育つと、気持ちがいつも安定し、保護してもらえることへの確かな見通しを持つようになり、特定の大人と体と体が離れていても大丈夫と思えるようになります。そして、いつも助けてくれる特定の大人の姿が傍にいなくても、いざとなったら必ず助けてくれるという気持ちがその幼児を支え、自立や自律するようになるのです。アタッチメントが自分を大切に、自己を高めていくための力(自尊心・自己肯定感・自制心・自立心・自律心など)となっていく、そしてその力は、集団の中に溶け込み、人との関係を作り、維持していくための力(心の理解能力・共感や思いやり・協調性・道徳性・規範意識等)にもつながっていくのです。

くっつきたい時にくっつかない子は後追いすると言います。子育ての中では、「早く自立してほしい」、「自分のことは自分でしてほしい」、「すぐに機嫌が悪くなって泣かないでほしい」と思うことがあるかもしれません。また、泣いて保護者の方にしがみつくとときがあるかもしれません。しかし、アタッチメントが不安定な状況の中で突き放してしまうのは、かえって自立や自律を遅らせるということです。また、「うちの子は、自立していて親と離れていても大丈夫」な状況であっても、見放すのではなく、見守りながら常に何かあったときに受け入れる安全地帯である親の心の準備ができていない状態にあるということがアタッチメントを形成するには、とても重要だと考えます。

家庭では、保護者の方が、子供園では先生がアタッチメントを形成する重要な役割を担っています。家庭と子供園の二つの社会的世界でどれだけアタッチメントを形成できたかということが大切で、そのことが幼児の非認知能力を育て、生涯にわたる人格形成につながるということです。この機会に、ご自身とお子さんとの関わり方を振り返ってみるのも大事かもしれませんね。



《7月の保育》

★3歳児 うさぎ組

好きな遊びの中では、製作コーナーにある素材を自分なりに組み合わせてセロハンテープで貼り付け、遊びに使うものをつくって楽しんでいます。ウレタン積み木や衝立を使った構成遊びも楽しくなってきたり、家・迷路・動物園・お店などの大きな場をつくってその中で遊ぶ姿も見られています。

学級のみんなでする活動では、『三匹のこぶた鬼ごっこ』や新聞紙遊びなど、保育者や周りの幼児と一緒に伸び伸びと体を動かしたりダイナミックに遊んだりすることを楽しみました。

今月は、水遊び・プールで水に触れる心地よさを感じながら、それぞれのペースで水に親しんでいけるようにします。また、遊びに自分なりの楽しさを感じながら、やりたい遊びを見つけて取り組んでいけるようにします。

★4歳児 くま組

ぞう組が遊園地に招待してくれたことをきっかけに、自分たちもまねをして、ペットのハムスターをつくりお世話をしたり、パスタをつくってお店を開いたりして楽しんでいます。また、それぞれが遊びに必要なものを自分なりにつくる中で、友達のつくっているものから刺激を受けて自分もやってみようとする姿も増えてきました。

学級のみんなでする活動では、繰り返しふれあい遊びを楽しんでいます。学級のいろいろな子とペアを組みながら親しみを持ち、一緒にする嬉しさや楽しさを感じているようです。

今月のプール遊びや水遊びでは、約束を守りながら、水の心地よさを感じ、伸び伸びと動くことを楽しめるようにしていきます。

また、七夕に向けては、伝統行事の由来を知り親しみながら、絵の具を使って色を付けたり、染紙をしたりし、飾り作りを楽しんでいます。

★5歳児 ぞう組

遊園地ごっこを経験し、飛行機づくり、学校ごっこなど、自分のめあてに向かって工夫してついたり、友達とイメージを共通にして動いたりして遊ぶ姿が増えてきました。遊びの中で友達同士のやりとりが増えていますが、まだまだ自分の思いを伝えられなかったり、相手の思いに気が付いていなかったりする場面も多くみられます。保育者が互いの思いを確かめたり、言葉の橋渡しをしたり、思いや考えを伝え合えるようにしています。

今月は、プール遊びで水の中で動く心地よさや楽しさを味わっていきながら、自分のめあてに向かって挑戦できるようにしていきます。また、自分たちで育てた野菜の収穫・調理体験などの年長児ならではの活動も経験し、収穫の喜びやみんなで食べる喜びを味わえるようにしていきます。